令和５（２０２３）年度　第２回柏崎市環境審議会　議事概要

市民生活部環境課環境政策係

このことについて、以下のとおり報告します。

○　日　時　令和６（２０２４）年３月４日（月）午後１時３０分～午後３時３０分
○　会　場　クリーンセンターかしわざき　１階　大会議室
○　出席者
　委員　伊藤会長、田村委員、佐藤委員、石塚委員、小柴委員、蒼原委員、鴨下委員、新沢委員、宮田委員、春川委員、品田委員、今井委員（欠席委員２名：阿部副会長、梅田委員）
　事務局　小黒市民生活部長
　（環境課）若月課長、今井課長代理、佐藤係長、米山係長、江部係長、藤田係長、猪狩主事
○　議事概要

	１　開　会
	２　審議会会長あいさつ 本日の議事は協議事項３件と報告事項２件、議事の最後に意見交換を行いたい。委員の皆様からは忌憚のない意見をいただきたい。
	３　議　事 **⑴　協議事項** **ア　柏崎市ゼロカーボンシティ推進戦略について**
委　員	＜市民版＞脱炭素アクションはどういった時に配布するのか。高齢者には、横文字が多くて理解できないことが多いので、分かりやすく説明してほしい。
事務局	新年度に、市民向けの地球温暖化防止普及啓発学習会を開催する予定である。子どもから高齢者までの幅広い年代に対し、脱炭素アクションを起こせるきっかけの一つとしたい。具体例を用いて、丁寧に説明していきたい。
委　員	啓発リーフレットは、知ってもらう意味で役立つと思う。市民の皆様にどれだけ知っていただけるかが大切で、知ってもらうために全戸回覧等を考えているのか伺いたい。
事務局	全戸回覧等を含め周知方法は現在内部で検討しているが、可能な限り、あらゆる場面を通じて配布していきたい。

委　員	ＣＯ$_2$排出量の数値を何トン削減で表しているところを、一般市民がどのくらい理解しているか。初歩的なことを例示して、これくらいということを分かりやすく説明した方が良い。
事務局	森林に例えれば、杉の木を何本植林するに等しいなど、分かりやすい事例を用いて、見える化といった側面からも丁寧に説明していきたい。
委　員	耕作放棄農地をこれ以上荒廃させないように、植林してＣＯ$_2$吸収率を高めていくことも施策としてあっても良い。ＥＶはコストが高いことと、充電設備不足でハイブリット車が優先しているが、市内のＥＶ普及率はどのくらいなのか伺いたい。
事務局	地球温暖化対策実行計画の進捗管理でも、森林整備の施策も行いながら、森林吸収量を高めていけるよう努力していきたい。令和５（２０２３）年度はＥＶとＰＨＶを合わせて、４３台ほどの補助金申請が採択され、例年に比べ、極めて順調に推移している。
委　員	３Ｒは浸透してきているので、５Ｒを実践して、修理や補修し使い続ける「リペア」と、いらないものは断る、景品はもらわない「リフューズ」を説明した方が良いと思う。
事務局	基本的には、不用なものを断ることで、ごみを発生させないリデュース（発生抑制）と、繰り返し使い続けるリユース（再使用）がベースになるため、３Ｒと合わせて、「リフューズ」と「リペア」の２Ｒの説明を取り入れながら、市民には周知していきたい。
委　員	太陽光パネルが雪の重さで損傷することはあるのか。市が進める以上、設備に被害があった場合は市が補償するのか伺いたい。
事務局	故障となると、個人資産なので補償という概念はない。知る範囲では、雪の重みでつぶれたという事例は聞いていない。日照が良いところと比べれば発電量は劣るが、雪国に設置の太陽光発電も力を発揮して、付けて意味がないものではない。
委　員	ゼロカーボンシティ推進戦略では、環境全般に渡り、設備導入を始め、物事を広く捉えて、市民向けの啓発など、大きな指針が整ってきているので、市民や企業の皆様が率先して行動を起こせるよう、施策や考え方をアップデートしていってほしい。
会　長	只今の協議事項について、異議ないものと認め、了承しても良いか。

委　員	全会一致で承認
	イ　佐藤池資源物リサイクルセンター整備について
委　員	佐藤池運動広場第４駐車場の一部で、若い人達の利用もあるようだが、駐車場内に設置することで、それらの利用を妨げることにはならないか。一般利用者と供用するスペースが混在するため、後々になってトラブルが発生しないよう対応してほしい。
事務局	安全性への配慮は、運営する中で解消していきたい。スケートパークや総合体育館、運動広場の利用者との共用・共存といった意味でも、相互に良好な効果が得られようにしていきたい。関係者の方々と協議を進めながら、円滑な駐車場運営を行っていきたい。
委　員	佐藤池リサイクルセンターが開設され、現在の機能を十分そのまま維持できるということで良いか。
事務局	資源物の受け入れが増えているため、リサイクルセンター機能を現状に合わせて、施設を見直し、今の機能を十分果たせるよう検討している。松波を使う方は年間延べ１７万人もいて、資源物も全く同じものを受け入れられる施設を整備し、運営も適切に行っていきたい。
委　員	広さは十分あるが、イベント時の資材搬入・搬出とリサイクルセンターに出入りする車両との安全配慮に留意してほしい。何にも行われていない平日の広さは満足できるが、イベントと重なった際の対応を慎重に行ってほしい。
事務局	大きな大会があると満車になるが、リサイクルセンターの開設日に当たった場合、休止などの措置を講じて、共存といったことも考えていかなければならない。関係者と調整を図り、広くて良好な場所を共用しながら使っていけるよう努めたい。
委　員	アンケート結果に、松波と佐藤池の２か所で「開設日を増やしてほしい」「開設日時が不足」とあるが、佐藤池の場合、新しい施設を建設する際にはその点を考慮して、開設日を増やす可能性があるのか伺いたい。
事務局	大事な検討事項の一つであり、利点として、一度にまとめて出せること、都合の良い時に受け取ってもらえることに満足が得られている方が多い。配慮すべき話ではあるが、１００％行えるかは、運営コストと利用者ニーズとのバランスを図る中

	で、慎重に検討していきたい。
委　員	利用者ニーズのアンケート調査からも交通アクセスや駐車スペースの確保など利用しやすい要件が満たされており、分散されたことで利便性が高まったと思う。
会　長	只今の協議事項について、異議ないものと認め、了承しても良いか。
委　員	全会一致で承認
	ウ　新ごみ処理場整備・運営事業の実施方針（パブリックコメントを含む）について
委　員	柏崎市のゼロカーボンシティ推進戦略で、地域エネルギー会社による安定した電力供給とあるが、新たなごみ処理場を整備し、発電も行われるわけなので、あい・あーるエナジー㈱との連携の可能性を伺いたい。
事務局	連携を視野に入れ、この場所で発電し、この電気を地域で使えるようにしたい考えである。政策を実現するための実行力として最適なのは、あい・あーるエナジー㈱との連携が欠かせない。あい・あーるエナジー㈱を使って地域に供給していこうと考えている。
委　員	あい・あーるエナジー㈱の立場からすれば、市内に供給する元が増えれば良いのだろうと思う。他市の状況を見定めながら、一番有利な運用を行ってもらいたい。
事務局	ごみ処理場に求められる機能を効率的に運営するために発電を採用した。売却益を見込むが、５年後の状況を見定めた上で、先ずはごみ処理場内の電気料をここで賄うという考え方で取り組んでいきたい。
委　員	CO_2を削減できる施設であることを強調しないといけないと思う。良い施設ができたから、燃やせば良いという感覚になってしまう。一般市民に対して、減量化とリサイクルを合わせてＰＲする必要があると思う。
事務局	ごみ処理場が新しくなると、CO_2が減るのかというとそんなに変わらない。本当の意味でのCO_2削減となると、ごみの量を減らし、リサイクルに回して、ごみの量そのものの減量化は引き続き取り組んでいかなければならない。
委　員	規模が小さくなるため、ごみの排出量が減ればCO_2排出量も当然減ることになる。資材高騰等で足かせになっている現状があり、費用が高額になるため、市民にはしっかりと精査した上で説明した方が良い。運営費も、もう少し詰めた方が良いと思う。

事務局	建設費は議会に諮り審議をお願いすることになる。資材高騰等により、額が少ないと業者が受注できないといった心配がある。事業者が仕事として成り立つような適正な額を見込んでいきたい。
委　員	８０トンで２４時間稼働した場合、発電のパワーがどのくらいの規模感なのか、公表できる範囲で伺いたい。石油、ＬＧＰ等に比べ、発電コストは高くなるのか。ごみ処理のコスト面から、効果率が低いと思うが、何パーセントでタービンを回すようになるのか。
事務局	要求水準書により、事業者からの良い提案のものを求め、その中で一番良いものを採用して、それを建設することになる。ごみ処理場の電気を全て賄い、更に余剰電力が同じくらい出るのではないかと考える。廃熱を有効活用して、社会に役立てようという考えである。
委　員	住民説明会で、住民の理解を得ることは重要と思う。松波を始め３か所で説明されたが、説明会の範囲を決めた考えを伺いたい。例えば既存の施設設置時と同じ範囲など。
事務局	説明会の範囲は、既存のごみ処理場の近隣の方々に説明させていただいた。ごみ処理場の近隣がこの３町内であり、そこに丁寧な説明を行った上で、市民へのパブリックコメントも同時に実施して、広く意見を募った。
委　員	近隣町内への説明会などを計画的に行いながら実施に向けての準備を進めていただきたい。実施期間中のごみの収集について、わかりやすい周知をお願いしたい。
会　長	只今の協議事項について、異議ないものと認め、了承しても良いか。
委　員	全会一致で承認
	⑵　報告事項 **ア　「柏崎市の環境」発行について** 意見なし
	イ　令和６（2024）年度 環境課事業の考え方について
委　員	「柏崎市の環境」を見ても、参加人数が多くないため、環境教育を強力に推し進めてほしい。河川や海に捨てられたプラスチックがマイクロプラスチックになる要素が高いため、関係者に対し、適正な処理を呼び掛けてほしい。そのため、ごみ処

	理に関しても、地球温暖化対策と同じように、わかりやすい市民向け・事業者向けの啓発リーフレットを作ってほしい。
事務局	今直ぐなのか、もっと先を見据えた中で取り組んでいきたい。環境教育は、以前には要請が多かったが、今は狭間にきている状況であり、力を注いでいかなければならない分野であると考える。
委　員	子どもの教育がしっかりできていることが、かえって大人を刺激することにつながる。子どもたちに分かりやすいように、映像を用いながら、ごみを捨てない、ＳＤＧｓに関心をもつことを、色んな方面も考えて、一人一人の意識が高まるような取組をお願いしたい。
委　員	市の生涯学習課の要請を受けて、小学生を対象とした親子教室として、１月に新聞紙を使ったコサージュづくりを行った。
事務局	環境分野としてやるべきことは、先陣を切って行う環境教育プログラムがある一方で、全庁的な取組を通じて、色んな分野と連携する視点をもって取り組んでいきたい。
委　員	マイクロプラスチックの話があったが、海岸清掃は県の管轄なのか。今年は能登半島地震の影響もあって、結構なごみが漂着するが、国がやるべきものを柏崎市が負担することはいかがなものか。回収費用だけでなく、焼却・埋め立て費用も補助するという解釈で良いのか。
事務局	費用は国からの補助金がベースとなり、県が海岸を所管することになるが、市も県の委託を受けて、市の財源を一部投入して、県と連携して海岸清掃に取り組んでいる。処分までやらなければならないので、これを含めた費用となる。
	⑶　意見交換
委　員	柏崎市のゼロカーボン実現に向け、将来的なアドバンテージによる削減の割合が大きいが、市民と事業者の理解と協力が必要不可欠であり、更に一歩進んだ施策を行っていただくことを期待したい。
委　員	環境保全は難しい側面があり、子どもからお年寄りまで、意識レベルは上がっていないような感覚を持つ。環境課が施策を続けていかなければ、エンドレスでどこがゴールになるというわけではないが、旗振り役として日々の努力を続けていってほしい。

委　員	他市の店舗でやっているように、指定ごみ袋をレジ袋の代わりに販売することを検討しているのか。
事務局	販売する店舗との調整もあるため、将来的には検討していくが今のところ予定はない。
委　員	廃プラスチック問題は全国共通の課題で、国の政策も変わってきている。杉や欅の製品として、食器やフォーク、スプーンが出きていて、ストローまで木工品が使われている。柏崎市産木材の活用と普及啓発に取り組む「つなぐプロジェクト」が行われている。
委　員	国・県の目標を１５年前倒しするということであり、脱炭素社会を目指し挑戦し続けてほしい。市民の方々がどれだけ知っているのかが気がかりである。市民への意識調査を行い、現状や課題を把握できればと思う。重要となるのは、わかりやすい情報発信とメリットの見える化だと思う。
委　員	外国人が増えていて、これまでは大学に多かったが、今は企業で働く目的で来ている外国の方々が増えている。ごみをどのようにするのかは企業が責任をもたなければならない。企業と個人への意識付けを更に図っていかなければならないと思う。
委　員	新しいごみ処理場は発電設備も備わるので、２～３年かけて、広報かしわざきで特集を組み、ごみ処理場のことを知ってもらう意味で、市民に対しＰＲを行ってほしい。
委　員	ゼロカーボンシティ推進戦略を積極的に進めてほしい。鳥獣対策では、以前クマと遭遇して、それ以来一人で登山ができなくなった。昨今、各自治体でも実害が発生しているので、今後被害が出ないよう取り組んでいただきたい。
委　員	町内の環境委員をしていて、大学も近くにあるが、今年は引っ越しごみが投棄されていなかったので、少しずつでも浸透しているのではないかと有難く思う。自分のわかる範囲で地域に伝えていき、近所で環境活動に取り組んでいかなければならないと思う。
委　員	リサイクル率が上がったり、埋め立てが維持できていたり、ＥＣＯ２プロジェクトの参加事業者が増えていたりするが、CO_2を減らそうとしても大変である。２０３５年まで時間があるので、植林をもっと増やす取組を通じて、目標達成をしやすくした方が良いと思う。

委　員	家庭や町内、コミュニティに、ここで見聞きした良い取組を伝えていければ良いと思う。資源物リサイクルセンターを受託するが、市から指導をいただきながら、市民の皆様が心地よく資源物を出していただけるような管理業務ができるよう努めていきたい。
委　員	ベースとなるのが、市民の分別意識が根本にあると思う。分別・ごみ出しの意識を高めるために、ホームページに載っている回収から処理までの流れの動画や、ホームページでごみの分別検索できるＱＲコードを活用するなど、知ってもらうための周知方法を考えてほしい。
委　員	小中学生を対象とした環境教育プログラムについて、当施設でも取り組んでいるが、柏崎市内の環境と結び付けながら、園児から学べる内容にしていきたい。
事務局	今回伺った意見は多岐に渡っており、皆様の思いを十分反映できるよう、来年度の環境施策を検討するに当たり、その後の施策展開で参考にしながら、取り組んでいきたい。引き続きの意見をお願いしたい。 **４　その他** 意見なし **５　市民生活部長あいさつ** ゼロカーボンシティ推進戦略を初めて皆様に示し、審議いただいたが、脱炭素について、既に様々な取組をされている方も多くいる一方、何をやったらいいのか分からないというのも現実であり、これが当面の課題である。ただ、子どもたちが将来に渡って、安心して暮らせるまちづくりを、今の大人である私たちがしていかなければならないという意味では、脱炭素も同じであり、そのためには、いかに分かりやすく、理解していただくかが重要。今は、脱炭素アクションをやってみようというところからのスタートであるが、皆様からは皆でやろうよという感じで、それぞれの立場の中で、意識が広がるようお力添えをいただきたい。 **６　閉　会** 以上